

令和2（2020）年度 第4回 栃木県立日光明峰高等学校 学校運営協議会 議事録

日 時 令和3年2月17日（水） 14時00分～15時30分
場 所 栃木県立日光明峰高等学校 図書館（南校舎2F）
出席者 委員11名 その他本校事務局職員6名、記者1名
司 会 本校教頭

次 第

1 開 会【進行：事務局】

2 会長挨拶

学校運営協議会が始まって3年が経った。議論を進めていく中で成果や、実現が難しい課題も出てきた。報告・協議の中で現実を受け止めつつ、新たな取り組みや今後魅力化・特色化についてさらに力を入れる点はどこか、見過ごした点がなかったか、今後の方向性を共有したい。

3 校長挨拶

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で不安や焦りの中で始まった。しかし生徒達は自分たちでできることを考え、自主的、自発的に行動する姿が見て取れた。生徒達の中に地域の力になりたい、恩返しをしたいという意識が芽生えてきている。このような変化が出てきたのは皆様のお力のおかげである。今年度最後の運営協議会であるが、実りあるものとなるようよろしくお願いいたします。

4 確 認

第3回学校運営協議会（11／4開催）について：記録をH.Pに掲載・公表

- （1）夏季休業以降の生徒状況について
- （2）学校行事について（持続歩大会、オープンスクール、明峰祭 他）
- （3）総合的な探究の時間（日光学）について
- （4）入学志願者の確保及び魅力化・特色化の推進について

5 報 告

令和2年度の概況

- （1）広報誌の発行計画及び関係機関との連携（日光市、宇都宮大学の協力）・資料1

[魅力化推進係]

- ・「明峰だより」について

前回の運営協議会で挙げた指摘を含めて見直しを図った。

次年度からは隔月発行、編集作業を係で分担するようにして業務負担の均等化を図る。

- ・栃木日光H.C.アイスバックスとの協働について

古橋選手をお呼びして講演会を行った。広報にっこう・下野新聞に掲載、今後どのように協働を進めていくかは検討中である。

- ・宇都宮大学との共同プロジェクトについて

目的・内容等は資料を参照。今年度の活動としては4回目の活動を行う予定である。

(2) 学校評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 2

[学校評価係]

- ・11月に行った教員向け自己評価の結果報告・分析。
- ・アンケート全体として、平均点4点台後半が多く、高評価である。
- ・生徒の普段の様子から見て取れるように、自己評価が高いのもうなずける。
- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の流行により「地域連携」や「保護者との信頼関係の構築」の項目が低くなると予想していたが、評価は高かった。
- ・「研修」の項目や、「教員の多忙化」の項目で低さが目立った。教員内でもこの資料を共有しているので、改善を図りたい。
- ・保護者・生徒向けに行ったアンケートについて(別紙資料を参照)、高い評価を頂けているように感じる。今後HPに結果・分析を公表する。

(3) 進路状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 3

[教務主任]

- ・年度当初に休業期間があり、生徒・教員ともに進路活動の時間が十分にとれず、不安感があった。しかし、目標や果たすべき課題を全体で共有し、生徒が主体的に取り組んだ結果、現時点で多くの生徒の進路が決定している。進路決定後も周囲への配慮はもちろんのこと、社会で生きていくうえで必要な力や基礎学力を伸ばすことを掲げ、最後まで学習を続けることを目標とした。
- ・進学について、例年専門学校を受験する生徒が多いが、今年度は四年制大学への進学希望が多かった。学年の先生方を中心に、その後の生き方にもつながるように小論文・面接指導・志望理由書の作成指導を行った。その結果自己推薦で早稲田大学に合格する生徒もいた。この生徒はアイスホッケーに励みつつ、宇都宮大学との共同プロジェクトにも参加し、地域・まちづくりをテーマに受験をして、合格をいただいた。また、記載はないが、外国人留学生枠で宇都宮大学に合格した生徒もいる。今年転学してきた生徒であるが日本語や日本の文化に多く触れ、日々努力を続けていた。
- ・就職についても、就職試験日の解禁が1ヶ月遅れた状況で多くの生徒が進路を決めることができた。今年度、求人数が減ったという印象はない。第一希望が不採用だった生徒も最後まで諦めることなく、内定をいただいた。
- ・今年度の進路については、例年と比べても良い状況で終えることができたと感じる。

(4) 冬季インターハイ及び国体の結果・・・・・・・・・・資料 4

[アイスホッケー部顧問]

- ・冬季インターハイについて
スピードスケート部は全員が自己ベストを更新した。決勝にはいけなかったものの、各自が努力した結果である。
アイスホッケー部は初戦敗退という結果となってしまった。
フィギュアスケート部は惜しくも決勝に進出することができなかった。
- ・冬季国体について
スピードスケート部が健闘、少年男子1000mで1年生が6位入賞。
アイスホッケー部は初戦敗退という結果となってしまった。

(5) 入学者選抜（特色選抜）・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料5

[教務主任]

出願者数は25名、そのうち県外は4名。昨年の特色選抜合格者数は28名だが、出願者数自体は37名であった。県内の受検者は25名であり4名減、県外の受検生も減っており、苦しい状況であるが、この後一般選抜の出願人数を受けて、最終的な人数が決定する。

[教頭]

新聞でも報道されたように、2箇所目の下宿所が開所する。

(質疑応答)

- ・進路状況が良くなって素晴らしい。広報でPRする際、数字だけを示すのではなく、合格者のコメントを載せるなどしてアピールしてほしい。

→就職状況が良かったのは本校の卒業生がそれぞれの進路先で頑張っているということもプラスの要素に働いていると進路部長から伺っている。

- ・一般選抜での受検者数はどのくらいになると予想されるか。

→P11にある進路希望調査②の数字に近づいていくのかと思う。例年と同じ人数の受検が見込まれる。動画などでPRを行っており、各中学校への訪問を行った。日光市内の中学校教員から明峰高校が良くなっている実感を持っているとの言葉をいただいた。しかし、鹿沼市の中学校では本校までの距離、交通の不便さを指摘されることがあった。鹿沼・宇都宮方面の生徒をもう少し増やしていければと思う。

- ・アイスホッケー部の志願者が少ない。この要因は何が考えられるか。

→新型コロナウイルス感染症で、体験入部を行えなかった。

昨年度は下宿所ができたという情報で希望者が多くなっていた。そもそも県外から12人入ったことが稀である。その上、1つ上の学年に19名いるという情報が入ると、レギュラーをとれるか不安になってしまい、入学希望者が減少する傾向がある。県外生4人は例年であれば通常通りであるといえる。

- ・スピードスケート部の生徒が入賞しているということは、実力を上げることができる学校であるといえる。その情報が広まると、他県からも入学を希望する中学生が現れるのではないか。

→委員：競技人数が少なく、各県で取り合いとなっている状況である。栃木県内の学生であっても、他県から声がかかり、そちらの学校へいってしまう者もいる。地元で育たいという思いがあり、小・中学生の時から練習を見ている。現在のところ他県から積極的に引っ張るという話まではしていない。

→県外募集はスピードスケートもしている。

アイスホッケーは人数が必要となる、連盟としても他県へ流出しないよう努力をしているが、栃木県内でトップレベルの生徒は北海道に行ってしまう。

- ・(スピードスケートに関して)宇都宮の高校からでも出場している。

→委員：宇都宮在住の中学生たちは、通学に時間が掛かる、県内のどの高校に行っても指導を受けられるという理由で明峰高校への希望は出していない。日光市内の中学生は明峰高校に入るよう促しているが、宇都宮の中学生たちに強く勧めてはいない。国体の決勝に進出した生徒がいるということを一つのきっかけに、スピードスケート部に魅力を感じ、来てもらえるとよい。

- ・今年度の中学3年生アイスホッケー関係で県外受検するのは何人か。
→今年度は4名。北海道の中でも選手の確保が難しく、範囲を広げて声をかけている状態である。他校に声をかけられたとしても日光明峰にいきたいと思えるような生徒を増やせるよう努力していきたい。

6 協 議【進行：会長】

(1) 令和3年度の学校経営方針（案）・・・・・・・・・・資料6

[校長]

- ・次年度の学校経営方針の案についてご意見をいただき承認してもらおう。もし新任の校長となった場合、その方が多少編集し、次年度の学校運営協議会で最終的に承認いただく。
- ・Ⅰ基本理念の3目指す学校像について、Ⅰ基本理念について、3目指す学校像のなかの4つの項目で、1、2との関連が乏しいというご意見があった。再考した結果、3項目にし、それぞれ短い言葉に変更した。学校・生徒・外部からの3つの視点から「このような学校を目指します」と学校内外へ示したい。
- ・Ⅱ2目指す生徒像の3つの言葉は生徒に浸透している。学校行事の際、目標に挙げられている。教員の方でも様々な場面で集団目標に挙げており、また授業改善の係からも各教科に示されている。
- ・Ⅱ4重点施策について（1）③は幅を持たせた指導を目指す目的で文言を変更した。（2）④について案はできたので次年度はその実施の年と位置づけた。
- ・Ⅱ3重点目標について、「自らの成長を実感させる」という項目を目指す学校像へ移したため1項目のみとした。

(質疑応答・ご意見)

- ・Ⅱ学校経営方針の4重点施策について
 - ・（5）「職場環境の整備」とあるが、これから協同的な学びと個に応じた学びを行わなければならない中で、その両立のためにICTが必要である。教員の負担にならないのか。
→相反する二つの事項ではあるが両方の側面を持たなければならない、両立のために必要なものの1つがICTだと思う。特性を鑑みて、有効な手段を講じたい。準備等で負担にならないかという意見もあるが必要な生徒にも対応できる学校でありたい。
 - ・（3）魅力化・特色化の②に積極的なPR等による入学者の確保とあるが、入学者の受け入れに関してはどのような生徒を入学させるかという視点も重要ではないか。
→生徒を広く受け入れたい。但し、明峰高校に預ければ、3年間で育ててくれる、個に対して手厚く指導してくれる、生徒自身で気づけていない潜在能力を伸ばしてくれる学校であると信頼されるようになれると良い。そのためどのような生徒に育てていくのかに重きを置いた。それらを簡潔に示したのが目指す生徒像である。新しい世界にチャレンジする姿を地域の方々や保護者にみせたい。
 - ・普通科改革について、観光科や国際科などの学科の設置は可能なのか。
→新たな学科を設置するとしたら、実践的な英語力を育てられる学科と、観光に関する学科を設置したい。日光の観光産業を間近に見ながら観光ビジネスを学び、深めていってほしい。学科新設ではなく授業・特別活動の中で行えると良いと考えている。

→アドミッションポリシーを作成する義務があればいずれ議論しなくてはならない。

新学科も設置しやすくなったと聞いている。実際どうなのか、調べてもらいたい。

- ・明峰高校はコース選択が多様であり、個人で目的を持って選択でき、興味を持った分野の取り組みもできる。現状の取り組みを進めて、新設学科を考えれば良いと思う。アドミッションポリシーを作るのであれば、協議会でも議論されると良い。
- ・少子高齢化が進んでいる中で、交通の不便さもあり、入学者数が減少している。しかし、逆に日光から宇都宮に進学している中学生もいる。明峰の素晴らしさ、進路の多様さを強く PR しないといけない。地域共々衰退しないようにしたい。
- ・地域福祉に関する講演会を行った際、高校生の皆さんが熱心に考えて様々な意見をいただいた。これからは福祉にも重きを置かないといけない、学生の中から地域福祉に目を向けてほしい。県内の高校では福祉に関するコースは少ない。他の高校にはない福祉のコースを入れるとどうか、これからの社会に必要なであると思う。
- ・明峰高校の特色を生かして欲しい。次年度は日光で国体もある。ボランティアも積極的に行えるので、そこを魅力化につなげていきたい。
- ・勤務時間を意識した働き方について、改革を進めるべきだと思う。
- ・学校経営方針の目指す生徒像が、生徒・教職員に浸透していることは素晴らしいと思う。
- ・目指す学校像の中に書いてある「地域に選ばれる」とはどういう意味なのか、他の表現にしてみてもどうか。明峰を卒業して、自信と意欲を持って社会に出る生徒が育っていくと良い。
- ・先日放映された NHK の「小さな旅」の中でアイスホッケー部の生徒がプロを目指すといっていた。学校が卒業後の進路や展望を指導できるのは良いことである。日光の自然や歴史を継承していく人を育てていければ良い。
- ・ウィンタースポーツに関わりがない生徒に対しても明峰高校へ進学する理由がほしい。中学校の先生からも、交通費を考慮すると宇都宮への通学と変わらない上に、卒業後の進路が変わってくるともはっきり言われた。交通費の問題に関しては、県立学校がスクールバスを出せると良い。
→日光高校と足尾高校が統合になったとき、3年間スクールバスが出ていた。
今までも出てきた議論であったが、今一度議論を深めても良い。

(2) 今後の学校の魅力化・特色化の推進について・・・・・・・・・・資料7

[魅力化推進係]

情報発信していく中で、広報誌だけでなく HP を活用したい。他県では学校の HP とは別に魅力化の HP を作成していた。独自の HP を作成したい。

(ご意見)

- ・予算については、明峰だよりを HP にあげれば発行費が浮くと思う。
- ・情報発信については地域興し協力隊との連携ができないか。
- ・生徒たちが魅力化に対して加わっていければ良い。どのような意識なのか。
→生徒は生徒会を中心に存続させたいという意識が強い。
- ・SNS の情報発信を生徒自身ができると良い。同年代に向けて発信を。
- ・明峰高校の存続という目標に向けて活動のあらゆることが入学の動機につながるような発信をしてほしい。
- ・新たな広報戦略を考える必要がある。

7 会長挨拶

8 校長挨拶

再度確認しなければならないところもあるので早急に対応していきたい。貴重なご意見をいただき感謝する。生徒数確保に向けてできる限りのことを行いたい。

9 事務連絡【進行：事務局】

(1) 『活動状況報告書』の提出について

4月中旬に本校より提出、議事録は作成次第 HP に掲載。

(2) 『経歴書』の提出について

令和4年5月21日まで登録、年度切り替えに伴う役職変更の際はご連絡をお願いしたい。

(3) 次年度の学校運営協議会日程等について

今年度は書面開催であったが、次年度は通常通り行う予定。

10 閉 会